

明法雑誌 第拾八號

明治十八年二月

編者 識

一 本誌ハ明治法律學校教師並ニ校友間本校卒業ノ稱ニ於テ法律學並ニ經濟學ヲ研究シ且ツ智識ヲ交換スル爲メ專ラ此二科ニ關スル論說講義等ヲ記載シテ教師校友間ニ分賦スル者トス

一本誌ヲ分テ左ノ七項トス

但シ每號必ス全項目ヲ置カサルコトアルベシ

論說 講義 討論 問答 翻譯 投書 雜錄

一本誌ハ當分ノ内毎月一回宛之ヲ刊行スル者トス

### 校友と学校を繋ぐ!

『明法雑誌』の「例言」に記された同誌刊行の目的は、大きくふたつでした。ひとつは、明治法律学校の教員と校友の学術的交流、もうひとつは学校の近況を校友に周知することでした。つまり、今日という学術雑誌と大学広報の役割を合わせ持っていたのです。

前者(学術的交流)のために、教員や校友による論文や教員の講義録などが掲載されました。講義録は、当時の代言人(のちの弁護士)試験合格者数トップクラスを誇った明治法律学校の教育内容を知るうえで、たいへん貴重な記録といえます。

『明法雑誌』創刊号「例言」

○ 雜錄之部

○ 明治法律學校ノ形況 本校ハ西園寺公望岸本辰雄宮城浩藏矢代操ノ諸氏カ法律學經濟學ヲ教授スル爲メ創立セシ者ニシテ明治十四年一月十七日ヲ以テ校ヲ麹町區有樂町ニ開キ爾來入校スル者日ニ月ニ増加シ當今ニ至リテハ生徒ノ數五百名ニ降ラス其間校ヨリ今日ニ至ルマテ入校セシ生徒ノ總數ハ一千四百名以上ニ昇レリ

且現今本校ノ教員ハ西園寺公望岸本辰雄宮城浩藏矢代操杉村虎一鹿野敏三小池靖一井上操岡村輝彦磯部四郎乘竹孝太郎等ノ諸君ナリ又本校ニ於テ卒業シ校友ノ身分ヲ有スル人々ノ族籍姓名ハ左ノ如ク

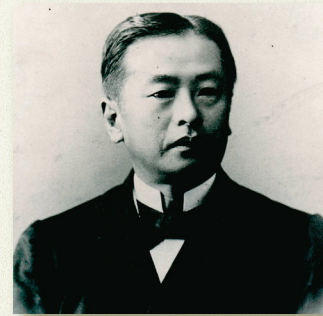
東京府平民 齋藤 孝 治 兵庫縣士族 依田 銈次郎 五十七

### 『明法雑誌』創刊号「雜錄之部」

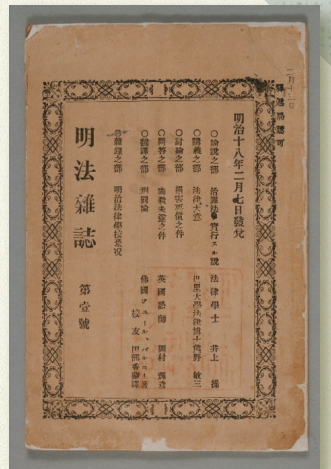
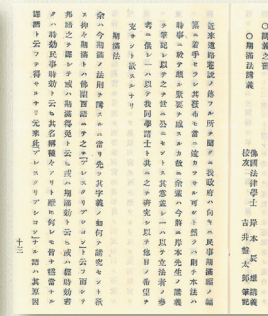
当時(1885年)の教員氏名、学生数、校友氏名などが紹介されています。

### 『明法雑誌』第14号(1886年3月)掲載の岸本辰雄講義録

筆記をした吉井盤太郎は校友(第1回卒業生)です。



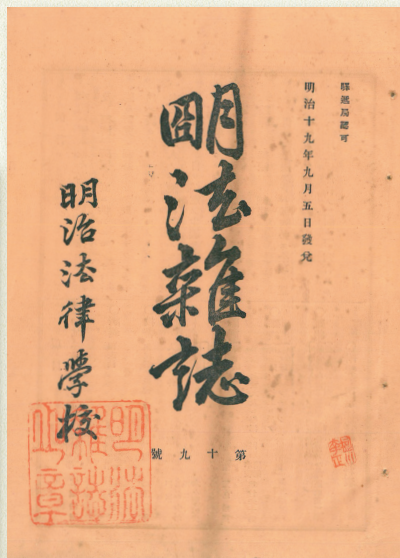
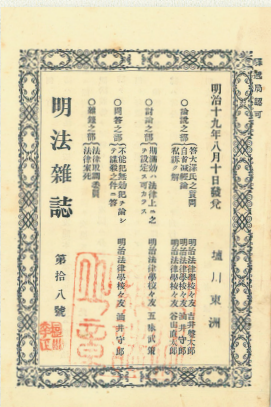
創立者 岸本辰雄



『明法雑誌』創刊号表紙(1885年2月)

### 『明法雑誌』第18号と第19号(1886年9月)

第19号から判型を大きくしテキスト量を増やしました。このように『明法雑誌』は刊行を続ける中で誌面の充実に努めました。



### 明治大学初の機関誌『明法雑誌』

今回は明治大学初の機関誌である『明法雑誌』を紹介します。創刊されたのは、開校からおよそ4年後の1885(明治18)年2月で、1889(明治22)年12月刊行の第98号まで続き後継誌に代わっています。

明治大学史資料センター 阿部 裕樹

# 目で見ると 明治大学の 歩み #80

明治大学史資料センター

### 校友が編集!

『明法雑誌』の編集にあたったのは、校友たちでした。第1回卒業生である五味(百瀬)武策もそのひとりです。人的・経済的に大きな後ろ盾を持たない明治法律学校では、開校当初から教員と校友の連携を強く意識していました。校友という呼称を用いたのは、明治法律学校が最初といわれています。



五味(百瀬)武策

(参考文献) 村上一博編著『日本近代法学の揺籃と明治法律学校』(日本経済評論社・2007年)  
明治大学史資料センター編『明治大学小史』(学文社・2010年)